



二輪草だより

平成30年7月号
発行:二輪草センター

- センターの活動予定**
- ◆8月20日 医学概論3 ワークライフバランスについての授業
 - ◆8月24・27日 訪問看護ステーション看護師のための生涯学習支援研修
 - ◆8月下旬 二輪草プラン推進委員会議 二輪草だより8月号発行

看護学生と看護師のふれあいランチタイム終了報告

看護職キャリア支援 職場適応支援担当 尾形 千悦

「看護学生と看護師のふれあいランチタイム」は、食事をしながら看護学生と看護師が交流をはかり、卒業後のキャリアやワークライフバランスについて語り合う機会として年1回企画しています。

今年度は5月24日に開催し、看護学生29名、看護師10名、計39名の参加がありました。看護学生からも積極的に質問があり、笑顔で話している姿が多く見られました。アンケートでは、看護学生の参加動機は「現場の雰囲気を知ること」であり、看護師は部署の雰囲気や体験談を伝え、実際に「現場の雰囲気」や「仕事と家庭の両立」「就職後のキャリアアップ」についてきくことができたこと、短い時間でしたが有意義で楽しいひと時となりました。

学生の不安は、「職場での人間関係」「仕事と家庭の両立」が多く、学生が働きたいと思う職場は、「職場の人間関係が良い」「勤務時間、形態への配慮がある」「研修体制が整っている」でした。また、「話しやすい雰囲気に参加してよかった」「インターンシップの話などが聞いて参考になった」「働いて



いる人に勤務体制を聞いて参考になった」と感想がありました。実習を離れて、臨床で働く看護師から直接話しを聞くことで、看護学生が卒業後の看護師として働く自分の姿を描くよい機会になったのではないかと思います。

病児一時預かり室、バックアップナース、病児・病後児保育室、カウンセリング相談 【6月20日～7月19日までの利用状況】

病児一時預かり室	依頼回数	0回	利用回数	0回
バックアップナース	依頼回数	18回	稼働回数	18回
病児・病後児保育室	依頼回数	11回	利用回数	10回
カウンセリング相談			利用回数	1回

* 病児一時預り室、病児・病後児保育室は全職員・学生がご利用になれます

【お問い合わせ先】 旭川医科大学 二輪草センター(復職・子育て・介護支援センター)
〒078-8510 北海道旭川市緑が丘東2条1丁目1-1
TEL : 0166-69-3240(内線3240) サンニンヨレ FAX : 0166-69-3249
開設時間 : 8時30分～17時15分 E-mail: nirinsou@asahikawa-med.ac.jp
ホームページ: <http://www.asahikawa-med.ac.jp/hospital/nirinsou/>



合同入局・地域枠説明会終了報告

二輪草センター 助教 菅野 恭子

平成30年6月26日11回目の合同入局・地域枠説明会が開催されました。今年度は前半に仕事と子育てを両立されている2名の先生に、後半は本学の地域枠で入学し、卒業後の研修をされた2名の先生からご講演頂きました。



お二人目をご出産直後である麻醉・蘇生科の小野寺美子先生は、ご自身がいかにかキャリアを形成してきたかについてお話しして下さいました。ご家族の理解と協力の中、学位取得、学会活動等を積極的にされ、今後の夢は家族と海外留学とのことでした。女性医師として仕事を続けるコツとして①決定力②男性との区別③女性らしさを保つ事を挙げられました。仕事と家庭の配分を自分で決めて周りに相談しながら後悔のない時間を過ごしてほしいとお話しされました。周産母子センターの吉澤明希子先生は、お二人の子育てをしながら、フルタイムで仕事をこなし奮闘されている様子をお話しして下さいました。先々のことを不安に思っ立ち止まるのではなく、今やって楽しいこと、魅力的だと思えることを見つけ行動することが大切であるとお話しされました。働き続けられる理由は、支えてもらった分いつか誰かを支えてあげたいという思いと、続けていきたい仕事と出会えたことであると語られていました。

市立稚内病院小児科の松本尚也先生からは、自身の研修生活やその後の地域医療についてお話しいただきました。最初に大学病院、次に中核病院、その後地方病院とだんだんと規模の小さな病院へ異動したことで、それぞれの病院ですべき役割の違いを学ばれたとのことでした。搬送する側、される側を両方を経験することで、どのような流れで患者さんが動いているのか理解を深めたとお話しされました。最後は旭川厚生病院外科の西越崇博先生にお話し頂きました。地域枠後の研修で外科医としてのキャリアを積めるかという問いに対して、他大学と比較して臨床において何も劣っていないとお話しされていました。情報化社会の現在は、自己研鑽に場所や肩書きは関係ないこと、初心を忘れないことの重要性を強調されていました。



本年度は1週間のポスター展示とし、各科それぞれの魅力が掲載された素敵なポスターを見ることができました。今年もインパクトのある耳鼻科がベストポスター賞を受賞されました。ベストサポーター賞は医師からは集中治療部の川田大輔先生が表彰されました。ご自身も子育てを積極的にされ、子育て中の女性医師への配慮が高く評価されていました。看護師からは5階西病棟の三浦美佳師長が選ばれました。子育て中のスタッフに優しく声かけされたり、定時で帰れるよう仕事の調整を行ってくださったりしたそうです。今年度から始まりました研修医が選ぶ優れた指導医に、第2内科の安孫子亜津子先生、第1内科の高橋佳恵先生、鈴木彩菜先生が選ばれ表彰されました。

今回も学生・研修医が35名、職員54名と多くの方にご参加頂きました。毎年サンドイッチと飲み物を提供して下さる医学部医学科同窓会にお礼を申し上げます。お忙しい中ポスターを作成して下さいました各医局の担当の先生方、誠にありがとうございました。来年度も魅力ある内容の会を企画したいと思います。

